

平成18年3月期中間決算説明会Q&A概要

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: 中間期の営業利益が7月の下方修正値から10億円改善した理由と、通期の利益見通しを下方修正する理由は何か？

A1: 中間期を分析すると、第1四半期は低調だったが、第2四半期で盛り返している。これは主に米国子会社製品のハンドヘルド計測器が好調だったことによる。通期の見通しには、携帯端末量産用の計測器需要の立ち上がりが遅れている市場環境を織り込んでいく。

Q2: ネットテスト社（現Anritsu A/S）買収の業績に与える影響について

A2: Anritsu A/Sが下期から連結に加わる影響は、売上で+50億円、営業利益で△10億円を見込んでいる。現在の売上水準では営業損失が発生する状況にあり、Anritsu A/Sの経営構造改革とアンリツグループとの経営統合を並行して進めていく。なお、営業権（連結調整勘定）は58億円、これを9年間で均等償却する。下期の損益への影響額には、この償却費3億円を含めている。

Q3: ネットテスト社の来期以降の見通しについて

A3: 当下半年に実行する経営構造改革と経営統合により、償却費用も含めてブレイクイーンとなる体質に変革する方針であるが、具体的な数値は来期予算において詰める。

Q4: ネットテスト社の経営構造改革について、具体的な施策内容を知りたい。

A4: ネットテスト社は3つのビジネスユニットからなるが、あたかもそれぞれが独立した会社組織として運営されているような状況にあり、効率的な運営の視点からはまだまだスリム化の余地がある。また、アンリツグループとネットテストグループとの間の事業運営体制の見直しや、販売組織の統合によって、アンリツグループ全体の効率的な運営体制作りを2006年3月までに実施する。

Q5: 第3世代移動通信（3G）用計測器の今後の見通しは？

A5: 当中間期は、W-CDMA開発用の計測器の売上が期初の見通しに届かなかったが、これは、英国子会社で分担していたソフトウェア開発が遅れたことなどによる。現在は、日英の組織を一体化させ、開発が円滑に進むよう体制を整えており、下半期には挽回が期待できる。また、下期後半からは、cmda2000 Rev.A対応の計測器の売上も期待している。

Q6: 光IPネットワーク関連計測器について

A6: この分野は、ITバブル崩壊後、長らく市場が冷え込んでいたが、いわゆるFTTHなど、各家庭まで光回線が引かれるようになり、また、この回線を通じて提供されるサービスの拡大が期待されるなど、市場好転の兆しがでてきている。今後は、伸び率8%程度の売上高の拡大を期待しているほか、新製品投入などによる収益改善も見込める。

Q7: 次世代ネットワーク（NGN）についてはどう考えているか？

A7: IP技術によって有線通信と無線通信が融合するNGNにより、提供可能となるサービスは大幅に拡大する。当社には、ネットワークを流れるデータを計測するIPテストなどの計測器群や、基地局間のネットワークを計測するワイヤレス計測器群は充実しているが、今後のNGN関連市場においては、ソフトウェアによるシステム構築力が重要となってくる。ネットテスト社の買収の主目的はここにあり、事業領域の拡大だけでなく、この点でもシナジーが期待できる。

【計測器事業以外に関するQ&A】

Q8: 情報通信機器事業の営業赤字が拡大する見通しだが、どのように対処するのか？

A8: 当事業が不採算に陥っている原因は主に2つある。それは官公需向けの道路情報システムなどの原価率の悪化と、新規プロジェクトであるピュアフロー製品群の開発費負担増である。今後は、事業構造の見直しを2006年3月までに大胆に進める。